

傍聴者の声

(令和5年第2回定例会)

●傍聴者の声 1

最初の質問に立った委員が話しているのに私語を交わしている議員がいた。マイクから集音されて傍聴席にも聞こえるので、不快だった。議員が発表中は、他の議員も清聴してほしい。議員の品格が問われる。

また、議員からの質問に対する答弁を聞いて思ったことは、具体的な返答になっていなくて、過程説明が長い。結局、何をするのか疑問だった。

(浅虫在住 60代)

●傍聴者の声 2

都市整備部長の答弁(万徳議員の質問に対して)は全く進歩がない。国土交通省の示す公営住宅入居時の保証人の有無は困っている住民本位に条例を変えられないのはなぜか。このような答弁だと国が示す基準は無益なものになってしまうと思う。

(筒井在住 70代)

●傍聴者の声 3

1日のみの傍聴でしたが、どの会派の議員も長期的・短期的な政策に関わる質疑、人・モノ・お金・情報に関わる質疑に際して、論点が明確ではなく、ごちゃ混ぜな議論になっているような印象を受けました。喫緊の課題については、もっとピンポイントな質疑や議論を期待したいです。

特に、現在青森市における喫緊の課題は、市P連ねぶた存続危機であります。市としてどのような支援・援助ができるかという質疑や議論がなかったのが残念でなりません。加えて、青森市観光大使である「東京ねぶた連合会」が先に自ら支援を名乗り出ていること自体、市政側で危機感がないことの表れではないでしょうか。議員の中にもねぶた好きな方、または関係者もいらっしゃるだけに非常に残念です。市議会が市民目線ではないというメッセージにもなりかねません。

カダる会など、市民との対話の機会をさらに増やし、政策に落とし込んでいただければ幸いです。何卒よろしく願い申し上げます。

(浜館在住 30代)